

I 研究主題 ともに支え合う児童の育成

II 主題について

本校では昨年度、ICTを活用して「自分の考えを伝えることができる児童の育成」を目指し、授業実践に取り組んだことで、自分の考えや思いを言葉や文字で表現することが苦手な児童でも、資料や絵、録音機能などを用いることで友達に伝えることができた。このようなICTを活用した授業づくりによって、児童の発表や交流に対する自信を高めることができたことは、大きな成果である。

しかしながら、言葉が足りず資料だけではうまく伝わらなかったり、話を聞く際に集中できず、内容が十分に理解できなかつたりするなど、協働学習にかかわる課題があげられた。これらの課題は、学習の中で教師が児童の興味をひく課題設定や児童がお互いに認め合う評価などの支援を仕組み、ともに支え合う協働学習に繰り返し取り組むことで、解決することができると思う。また、中央教育審議会答申においても、情報化やグローバル化が進展する社会、将来の予測が困難である Society5.0 の時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を発展させていくために「主体性」「表現力」「チームワーク」などの資質・能力を備えた人材を育成することが重要であると述べられている。

今年度は、協働学習において教師の支援により、同じような立場の仲間とともに支え合うことができる児童の育成を目指す。そこで、児童が学び手にも教え手にもなり、互いを高め合いながら学習を進めることができるような教師の役割を考え、研究を進めていきたい。

III 研究の方法

- ・ 実践方法や、成果や問題点について全職員で共有し合う。
- ・ 児童の様子をもとに研究の成果と課題を明らかにする。
- ・ 本年度の成果と課題を踏まえ、次年度以降の方向性を検討する。

IV 研究の手立て

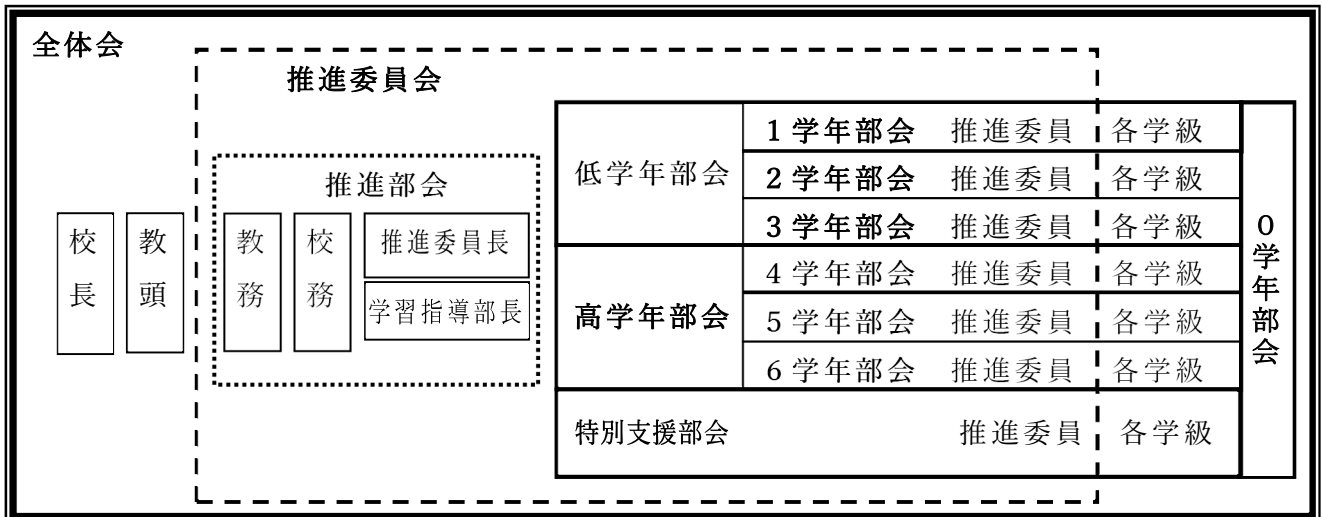
○ ともに支え合うための指導の工夫

学習過程において、児童の実態に合わせた手立てを工夫することで、児童が学び手にも教え手にもなり、互いを高め合いながら学習を進めることができるようにする。

V 研究の成果と課題について

各学級の実態に応じて、実践を通しての児童の様子を基に分析し、成果と課題を明らかにする。

VI 研究推進の組織



全体会では、推進計画の共通理解を図りながら、各学年の推進状況を報告し合う情報交換を行う。

推進部会は、基本的な研究内容や推進方法についての案を練り、提案する。

推進委員会は、推進部会から提案された案について検討・協議する。また、本年度の成果と課題を踏まえて、今後の方向性を計画する。

学年部会では、企画・立案された内容に沿って学年の実践計画を作成し、研究を進める。また、研究の成果や課題を報告書にまとめる。

VII 年間計画

月日（曜日）	内容
4月 7日（金）	本年度の研究計画提案検討（推進委員会）
4月 19日（水）	本年度の学校教育努力点について提案（全体会）
5月 12日（金）まで	年間指導計画の検討（学年部会）
1月 9日（火）	各学年による実践の成果と課題 各学級による実践のまとめ提出
1月 18日（木）	最終報告会（全体会）
3月 7日（木）	次年度の研究計画検討（推進委員会）

VIII その他

1 公開授業

- ・ 学級担任及び専科教員は1回以上、授業実践を校内の職員に公開する。
- ・ 公開授業を予定する日時は、事前（1週間前まで）に推進部会に相談し、学校行事との調整を図る。
- ・ 公開授業は、**前後半に分けるなど**、できる限り都合をつけて参観し合い、自分の学級の指導に生かせるようにする。

- ・ 事後検討会は参観された方全員に声を掛けて、都合の良い時間に行う。その際、授業参観シートを参観された方に渡し、授業に関する成果や課題などを文面か口頭で指導をいただくようにする。
 - ・ 公開授業の指導案は、公開する前日までに推進部会が指定した場所に保存する。使用する学習プリントも合わせて保存する。また、管理職と努力点推進委員会に一部ずつ印刷して渡す。指導案の書式等は、推進部会で検討・準備する。
- 2 報告会（最終）
- ・ 公開授業の成果と課題を踏まえて、1月に最終報告会を行う。
- 3 保護者・地域の人々への情報開示
- ・ 学習参観や学級懇談会などを通じて、努力点の内容や経過について知らせる。
 - ・ 学校ホームページには、努力点についてのページを設け、研究計画を公開する。
 - ・ 学校評価において、教職員及び児童・保護者の回答を集計し、その結果を学校便りにおいて報告する。